

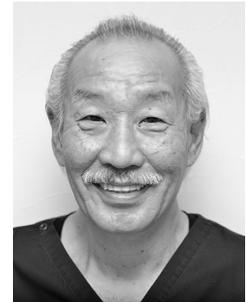
抜歯即時埋入、即時荷重の臨床

Immediate placement and immediate loading. -Theory and Clinical Practice-

Yoshiharu Hayashi

林 揚春

医療法人社団秀飛会優ビル 歯科医院



最近では抜歯後、即時にインプラントを埋入する方法が一般的になって来ています。この方法の利点は、外科的介入の回数が少なく、治療期間全体が短縮され、軟組織と硬組織の損失が減少し、その結果、患者が審美的、機能的に満足することです。

従来のインプラント埋入手法では、問題のある歯を抜歯し、抜歯窩が治癒するまで2~4ヶ月待ってからインプラントを埋入し、周囲の骨とインプラントが結合するまで3~6ヶ月待つ。この処置の後、インプラントを露出させ、補綴用アバットメントを装着するための二次手術をしなければなりません。最終補綴治療を考慮すると、患者は失った歯を補うために最大8~12ヶ月待つ必要があります。このような従来法の問題点から、抜歯後すぐにインプラントを埋入し、すぐにインプラントに補綴物を装着することで、治療期間を大幅に短縮する戦略が、特に日本のような超高齢化社会においては一般的になって来ました。

即時埋入・即時荷重インプラントは、以前よりも予知性が高く、成功率も高いが、この方法をすべての患者に適用することはできません。従来のインプラント治療と比較して、抜歯即時埋入、即時荷重は、慎重な患者選択および抜歯前の硬組織と軟組織の状態を診査して、十分な一次安定性と配置、側方力の回避などを考慮した手法が求められます。今回は、抜歯後即時埋入、即時荷重の症例を供覧し、抜歯即時埋入、即時荷重を行う上での原理原則について考察します。

【略歴】

現在

医療法人社団秀飛会理事長

日本顎咬合学会指導医

日本口腔インプラント学会会員

ICOI 指導医